

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
渡邊真理香
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
日系アメリカ文学にみられる女性同性愛に関する研究
3. 助成額
180,000 円
4. 実施期間
2018 年 7 月 ~ 2019 年 6 月
5. 実施状況
本研究では、Nina Revoyr の小説を中心に、日系を含むアジア系アメリカ文学に描かれる女性同性愛について考察した。文献収集・精読に基づく研究成果を、次のようなスケジュールで発表した。 2018 年 10 月 口頭発表(成果①) 2019 年 4 月 論文投稿(成果②) 2019 年 5 月 口頭発表(成果③) 2019 年 6 月 論文投稿(成果④) 申請時のスケジュールから多少の変更はあったが、全体としては計画通りに研究を進めることができた。
6. 事業成果と自己評価
<事業成果> 成果① 日本アメリカ文学会第 57 回全国大会(2018 年 10 月 6 日於実践女子大学渋谷キャンパス)で、「日系作家 Nina Revoyr が描く人種と同性愛の関係」と題する口頭発表を行った。アメリカにおける人種差別問題に主眼を置く Revoyr の小説になぜ同性愛者の登場人物が必要なのか分析を行った。 成果② 成果①に加筆・修正を施し、論文「歴史の語りべを主張する—Nina Revoyr 作品における同性愛の必然性—」を『関西アメリカ文学』No.56 に投稿した。2019 年 7 月 16 日現在査読中であるため、掲載が認められた場合、タイトルを含め多少の変更の可能性がある。申請時には、『中・四国アメリカ文学研究』No.55 へ投稿予定だったが、研究の進捗状況により変更となった。 成果③ アジア系アメリカ文学研究会 5 月例会(2019 年 5 月 18 日於名古屋大学)で、「アジア系クィアの表象をめぐる反復と変容—大衆フィクションを中心に」と題する口頭発表を行った。申請時には、同研究会 1 月例会で発表予定だったが、研究の進捗状況を考慮して変更した。小説だ

けでなく、インターネットの動画配信サービスが提供する映像作品等も取り上げ、アジア系の同性愛の描かれ方を考察した。

成果④

日本アメリカ文学会第55回全国大会(2016年10月1日於ノートルダム清心女子大学)で行った口頭発表「『形なきもの』を手に入れる—Nina Revoyr の *The Age of Dreaming* における虚構とトラウマ」を本助成金によって発展させた英語論文“Owning ‘Intangible Thing’: Fiction and Trauma in Nina Revoyr’s *The Age of Dreaming*”を *AALA Journal* No.25 に投稿した。2019年7月16日現在査読中であるため、掲載が認められた場合、タイトルを含め多少の変更の可能性がある。

<自己評価>

本助成を受けたことにより、2012年から行ってきた Nina Revoyr 研究をまとめた形で成果にすることが可能となった。Revoyr 以外の作家や作品については、十分な考察や成果発表に至っていないものがあるので、今後も研究を継続し、積極的に発表していきたい。先行研究が充分でない研究テーマではあるが、それぞれの作家がどのような作家に影響を受けてきたのか等も細かく研究し、体系だった研究へと発展させたい。

7. 提出成果物

成果①口頭発表原稿(「日系作家 Nina Revoyr が描く人種と同性愛の関係」)全ページ

成果②投稿論文(「歴史の語りべを主張する—Nina Revoyr 作品における同性愛の必然性—」)全ページ

成果③口頭発表原稿(「アジア系クィアの表象をめぐる反復と変容—大衆フィクションを中心に」)全ページ

成果④投稿論文(“Owning ‘Intangible Thing’: Fiction and Trauma in Nina Revoyr’s *The Age of Dreaming*”)全ページ